

バストス週報

第三百卅六号
 昭和卅一年
 九月十六日
 発行

DIRETOR
 KOITI MORI
 REDATOR
 SHION ODA

RUA PRES.
 VARGAS 188
 C. P. 112
 BASTOS
 C. P.

ANUAL
 DE 1957

100\$ —

児童に洗礼

小学校よりお奨め

昨年九月バリーヨ校長時代小学校から父兄へ児童に洗礼を受けさせる運動を起し十一月一日聖人の日にイクレージャバストスでフレイクレメント指揮のもとに百数十名の授洗式を行ったことがある。その中にはジナジオの生徒も多数まじって来たといふことである。

こんどクルソの校長も代り新学校長アルジラシルベイラ、バルマ文史とイクレージャの新神父フレイクレージャ、アリオビガオの名で昨年と同じように再び授洗運動を開始する模様である。

「愛する児童へ洗礼のすすめ」というパンフレットを作り配布したが、その主旨はフレイクレメントの初等教育に日本にもあった修身課というものが無く、之に代るに教會でキリストとキリストの愛を教える、カトリック的信仰に導く方法をとっているのでも、せひ此の方法に従ってほしい。

と云うにある。キリスト教徒たるには先づ洗礼の儀式から実践しなければならぬ。しかし学校の方でも大事をとって児童の父兄たちが洗礼に不服であるのをムリに強いるわけにはいかぬので親から承諾書をとって、あとから文句の出ぬようにと中々の周到ぶりである。

吾々は渡伯後にもなくスルツホに修身課のないことを知り不思議に思ったが、その後欧米の小学校の実情を知るに及んでキリスト教諸国では大抵教會が修身課の代役をとめていて、これを知らず、いわば日本のことを判らなかつたのである。

バストスに日本語小学校があつた頃は修身もあつたが、後藤千代先生以後は自然消滅の形であつたと思ふ。後藤先生のおと木下正史先生が就任して教育方針を話したところ、故波部巻三郎老が「先生はいわれれることもないが、私は「修身」をしっかりとやらせてもらつて日本人として恥しからぬ人間的な教育をして貰いたい」と注文した。木下先生は「修身はこの国では教會まかせで小学ではやらない、そのより教學方面に充分力を注いだ方が、後の為になりませう」と応酬し互に主張し合ったことを記憶している。

今でも吾々は小学校に修身課のないことを淋しく思つてゐるが、これは大方の父兄に共通する関心事だと思ふ。しかし、後には日本にも教育革命が起り、修身課がなくなつて、社会主義の行き過ぎを是正する室本位、國家主義の行き過ぎを是正すること共に、よき社会人たることを新目標として再發足をしようとする。現在ありもしない修身課を余り恋慕うのも、郷愁に過ぎるから、いふまでもない。又外国へ来て、その国の文教に驚かされる程、又互に教育家でもないので、何となくおさまらぬまま、黙してゐるのが本音という処が、うさだがバストスに正現のクルツホが、

ALFAIATARIA IMPERIAL



笛を吹く男 丸山洋服店
 ミナサンの洋服店

マルヤマのフックに見とれる

Relojoaria Confiança

T. NAKAMURA TUPÁ

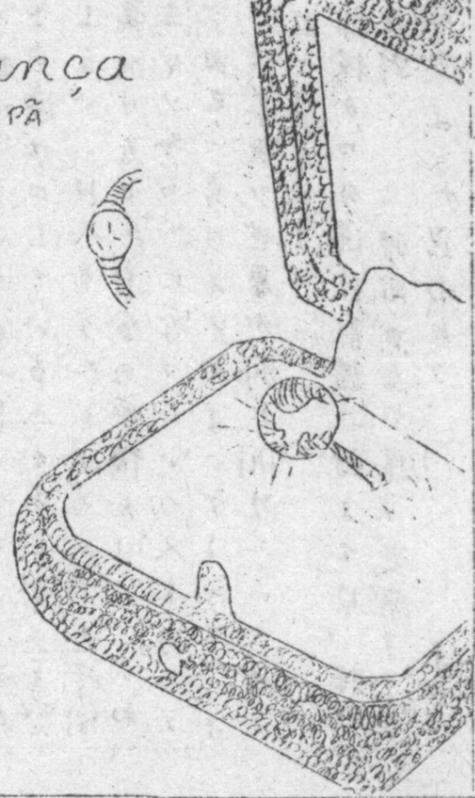


ツパン市 ホント前

中村時計店

郵函ツパン五面四

繪だけの廣告





早稲靴店

Sapataria HAYAKAWA

松の木では
ありません
クツをはいて
立っている人
の足ですよ
よいクツを
安らうる店

遠景は富士で
近景は太い松が二本!

日本語小学校にとつてかわつてからでも
早や二十年余になる。爾来今日迄修身課
は無くとも、どうやら大悪党も出さず
来たことは大慶三極が学校当局は
（修身課がない為め）操行がわるく両親
に心配をかけ、家庭内に不和を生ずる
もあり、之は子供の身に及ぶ不幸
あるし、悪くすると社会から厄は
れるような人間になりぬとも限りぬ
い、それに対処する手段として幼年時
代から敬神の念を養ひキリストの尊敬信
頼を身につけておけば必ず正しい人格者
となり後天的素質に恵まれる人物になる。
信仰のある者程後りに逆境に立つても
心の光明を失はず、自ら憤起する意志が
働き禍を転じて幸福となすことができる
と、大いに信仰礼賛をしてゐるのである
日本から中年にして渡伯した者の大部
分は仏教徒が多く、中には無信仰の者も可
なり居るが、総じてカトリック教團たるア
ラジルの来ても中々ウンといわず、ろく
すつは信仰心はなくとも、うちは南本念年
でございまして、なにとぞ庇ひらしくすま
してゐるものも無いわけではない。信仰
の焦点或は孤習がちがいすゑに馴染めな
いせい、が何れにしろカトリックに改宗す
ることは一世には中々の謝事であると思
われる。
しかし二世ともなるとアラジルの語は違
者、自然アラジルの風習になじみ、カトリ
ックに直ぐく機会も多く、カトリック式な園
園氣に浸ること多し。又二世たちには自
ラジルの社会に溶けこみ刻り込むには自
カトリックたるものが早速でもあり又彼我
の感情融合にも何かと後立つことが多
らうと思われ。
まして初等教育の方針が児童をイタレ
し、アに親ませることであつて見れば、
すなおに従つていくことが定石ではない
かと思われ。今日カトリックの教義な
り風習に真向うから反対する人が絶無
とは云わぬが、それはそれとして一応

御 別 札

今度老後の終焉の柵を聖市よりツツ
トラ街道四十キロのアルジャに求め
まして移転する事になりました。入
植以来廿数年の長い間皆様から賜わ
りました御懇情に深謝いたします。
私共一家にとりましては當バーストは第二の
故郷でありまして、実に惜別の情を禁じ難く
皆様方と共に致しました苦樂は終生忘れ
られない事と思ひます。何卒皆様方と近郊
御視察の際には是非御立寄り下さる様願
ひ申上ります。尚皆様方には益々保養專
一に長寿を全うし愈々御繁榮の程御
祈り申上ります。尚一々拜趨の上御
暇乞い致し度く思ひます。が移転に際
し何に彼と心も急ぎます。ままた紙上
を借りて御別れいたします。
一九五六年九月九日
クロリア二區

岡 森 嘉 平 一 家

各 位

子供の時代がやってくることを意識して
子供の希望にまかせて授洗させることが
定石にのろく正しい石立てと思ふもので
ある。子供たちには大人の如く信仰を知
らぬ、で批較撰擇の必要がないので、カ
トリック入信或は授洗には遲疑はないもの
と思われる。
余教心のないのが一番いけない。無神
論を自慢にしてゐる人があるが、之も感
心しない。何人とうにキチンとした学問
の裏付けなしに自分の感情を以て、いわ
ゆるヤソキライになつてゐる人もあろう
が、自己一身はそれでよいとしても、子
供には子供の世界が別に開けていく事を
忘れてはなるまい。
学校からの洗礼勸誘に對しては、特別
の反對 理由のない限り受諾すべき
もののように思われる。
(余音)

己が生命 智慧も力も悉く
神のたまもの尊くあるか
新津牛丸

中南米視察代議士団お目見得講演

九月一日聖市セントロフロソラード・バウ
リスで開かれた日本代議士団の講演
その二

馬鹿働きは駄目

川俣清音氏(社会党)

(はじめラジオをききとりたし) 終戦後の大混乱か
らやつと立ち上り今や國民の自覚によつ
て日本の確立に邁進しつつあります。海
外に於ける同胞の二世或は三世の要望を
受けて立つたの用意があるとお答へでき
るのではありません。

今度の旅行で団員が社会党とあると
か自由民主党であるとかいう觀念から
れて視察をして参つたのであるが、只今
お話し申す上は、そのうち、大感情を
ぬきにしてお話ししたいと思つてい
るわけが、

御承知の如く日露戦争は、大國ロシヤ
を打破つて、戦いは勝つたが、戦後、
況にやんやんありました。身一次、
州大戦のあとにも不況があつた。戦後の
済社会には、いづれも不況があつた。戦
す。戦後の日本は領土的にも狭くなり、
互いに暮らして、苦しい思いをするよ
り、何とかして海外に手足をのばした
う、思いが強く、既に海外に活動して
て、外國へ出て見て、既に海外に活動
いる皆様の活躍の様子を見たいと思
と、この感に、深く思ひました。教育
私の一、皆非常に熱心に、上級の学
居られる様子で、このけなな有様
全く頭が、さかと思ひ、あります。その
の、為めに、働く、という考へ方は、全
た、え、ない、思ひ、皆様の働きの、中
國の、經濟、面に、大きな、影響を、与
独立に、大きな、役割を、している、事
表、さ、ない、で、居、られ、ま、せ、ん、

日本のもつて、いる、特長と、申、す、か、紳
力が、強く、戦後の、大、痛手、も、十、一、年、を、過、さ
や、世界、の、水準、に、達、せ、ん、と、し、つ、つ、あ、る、実
情、が、あり、ま、し、て、農、業、生、産、に、行、つ、て、戦、前
を上、廻、る、様、に、な、り、ま、し、た、又、工、業、力、に、於
ても、四、九、%、を、確、保、し、て、居、り、ま、す、が、之、れ、は
國民、の、努力、に、俟、つ、こと、は、勿、論、で、す、が、精、神
面、と、經濟、機構、の、相、俟、つ、て、こ、こ、二、三、年、未
た、わ、り、で、あり、ま、す。皆、様の、祖、國、に、居、り、れ
た、時代、或、は、父、母、時代、と、は、遠、つ、つ、非、常、に、生
産、力、が、大、き、く、な、つ、て、居、る、が、肥料、な、ど、は、
何、十、倍、か、を、使、ひ、ま、す、し、農、業、に、於、て、然、り

農具に於ては、昔のやり方の者は、少く
機械力を以て、狭い土地から、いかにして、大
きな收穫を得るか、と、絶えず、研究を、つ、か、け
て居ります。

日本經濟は國民に力を与える政治力
を生かすものであつて、國民が經濟力を得
る為めには、手元を、与、え、な、け、れ、な、い、
り、ま、せ、ん、と、つ、つ、を、向、い、て、居、る、の、が、判、ら、ず
馬鹿働きを、した、と、て、甲斐は、な、い、の、で、あり
ます。農民生活の向上は、馬鹿働きの、日、一
向、効果、は、上、り、ま、せ、ん、海、外、の、同胞、の、方、々、で
も、その、國、の、經濟、を、こ、う、持、つ、て、く、る、の、を、考
え、る、方、が、必要、に、な、つ、て、く、る、の、で、後、つ、つ、
在、伯、邦、人、の、在、り、方、に、つ、い、て、申、し、ま、し、て、ま
働、い、て、得、た、金、を、故、郷、へ、送、金、し、て、ま、す、こ
と、な、ど、は、大、い、に、考、え、物、が、あり、ま、し、よ、う、そ
の、國、の、國、力、伸、張、の、為、の、ゆ、く、人、が、そ、の、國、の
經濟、を、も、つ、つ、か、す、に、至、る、の、で、す、然、ら、ば
それ、は、必、ず、や、その、國、の、市民、と、し、て、尊敬、さ
れる、こ、と、に、な、り、俸、せ、を、も、た、ら、ず、こ、と、に
なる、の、で、あり、ま、す。

日本の國威といふものは、戦前は、おどかし
に、通、さ、な、か、つ、た、日、の、九、の、背、影、が、な、け、れ、
は、海、外、發、展、日、を、ぬ、様、に、考、え、て、い、た、け、
れ、も、今、は、違、ひ、な、い、す、皆、様の、こ、こ、も、祖、國、
の、援助、を、し、し、て、こ、こ、と、と、發、展、し、て、ま、ら、れ
た、の、で、あり、ま、す。

各國に、移、住、し、て、い、る、同胞、の、方、々、が、經濟
力、を、も、つ、つ、作、る、こ、と、に、ま、つ、つ、盟、邦、と、し、て、日
本、の、置、位、が、自然、と、高、ま、つ、つ、く、る、の、を、考、え、
同胞、の、協、力、に、よ、り、南、米、諸、國、の、地位、が、高
まる、こ、と、は、即、ち、日、本、の、國、力、が、高、まる、素、と
なる、の、で、あり、ま、す、から、在、伯、同胞、諸、君、の
力、に、よ、り、ブラジルの發、展、の、為、に、協、力、し
て、い、た、だ、く、事、が、何、よ、り、で、あり、ま、す。

ソ連、必、ず、し、も、恐、る、る、に、足、り、ま、せ、ん、日
本、の、國、論、が、一、本、に、な、り、任、ん、と、う、の、力、を
發揮、す、る、境、に、於、て、は、ソ、連、の、横、暴、な、ど、自
然、解、消、す、べ、き、も、の、で、あり、ま、す、(次、頁、へ)

御 礼

- 一金 参百クルセイロス也 石橋長見様
 - 一金 貳百クルセイロス也 伊勢島義忠様
 - 一金 五拾クルセイロス也 竹下為登様
 - 一金 壹百クルセイロス也 長橋 智様
 - 一金 壹百クルセイロス也 成 格 政 市 様
 - 一金 壹百クルセイロス也 郷 原 寬 市 様
- 右、本、会、へ、御、寄、附、下、さ、い、ま、し、た、事、を、存、じ、御、礼、申、上、し、ま、す、
一九五六年八月十日
バスター生長の家 誌友 相愛會

御 礼

八月廿六日當区入植廿五年祝典を催しました節は多大の御寄贈を賜わり有難
御礼申上り申す。尚当日は遠路御未場下さいまして御蔭を以て盛大に行事
を行ふことを得。区民一同感謝して居ります。折角の御未場に手不足の爲
め充分の御接待も出来かね恐縮でございます。

寄附者芳名
フアルツィラ区長 中原 一郎 拜

金三百針也	石橋長見様	金貳百針也	小茂田商店様
金二百針也	早川栄松様	金五十針也	浮田商店様
金二百針也	前山義雄様	金五十針也	池内商店様
金二百針也	佐々木久輔様	金五十針也	伊藤栄登様
金二百針也	木村久摩一様	金五十針也	島本富真様
金二百針也	三木武雄様	金貳百針也	(ビスケット箱) 水口パール様
金二百針也	山本一男様	金五十針也	篠内オノシナ様
金二百針也	小野松商店様	金五十針也	木原忠一様
金二百針也	三野野一様	金五十針也	佃オノシナ様
金二百針也	永吉商店様	金五十針也	(ビスケット箱) マルローシヤ養老院様
金二百針也	池田木テラ様	金六十針也	小林平志様
金二百針也	櫻木テラ様	金一コト也	フラ製糸会社様
金二百針也	八重樫家具店様	金五百針也	(運動會賞品) 重道商店様
金二百針也	中島パール様	金五百針也	パール西野様
金二百針也	喜多商店様	金五百針也	戸田ツイ子様
金二百針也	取東商店様	金五百針也	パール柳浦様
金二百針也	菊池バリア様	金五百針也	清家谷口シノマ第様
金二百針也	阿部五郎様	金三百針也	古賀繁男様
金二百針也	前田資人様	金五十針也	提田商店様
金二百針也	岡田豆腐店様	金五十針也	杉鮮魚店様
金二百針也	宮崎富真様	金五十針也	荒木キタム様
金二百針也	森川淳様	金五十針也	板垣薬局様
金二百針也	藤原全物店様	金五十針也	植木商店様
金二百針也	友春洋服店様	金五十針也	古田パール様
金二百針也	古沢キタム様	金五十針也	山中陽之助様
金二百針也	太郎商店様	金貳百針也	松浦信江様
金二百針也	湯井商店様	金貳百針也	谷口一男様
金二百針也	守越パール様	金貳百針也	本田明様
金二百針也	西川薬局様	金貳百針也	古田義松様
金二百針也	奥田歯科医院様	金貳百針也	横田浅吉様
金二百針也	後藤利一様	セルベリア一俵也	

合計金八コト六百針也 外に商品多数飲物等
尚 祝典當日左の方々から御祝として金を封宛御寄贈下さいました。

ソロカバノ興業者様	バストス 仙教会様	内馬場七郎様
橋本蚕種製造場様	篠田 宝様	Jão Paulinho Silva様
木口正功様	小堀 多聞様	菅原 報社様
大野英雄様	西家 重雄様	橋元 博分様
崎日春一様	清家 重雄様	池戸 信秀様
細江 葵一様	阿部 重雄様	西 信秀様
佐藤 一男様	相川 重雄様	豊島 喜市様
合計金 五コト一五〇針也	特別会計	新出 喜市様

三夏川侯清音氏つづき
 自然解消するものと思われず、現在の
 ところでは朝鮮との紛争、中共との國交回
 様など後多問題は未解決ではあります、
 日本の国力が充実して参れば、これらも丹
 満に解決するものと言われて居ります、
 日本の技術及資金を以て東南アジア諸國
 の資源開發に用いる余地がある、人口
 問題と共に東南アジアへの関心も高ま
 てるのであります、
 日本の完全獨立のためには海外の同胞か
 らも盛んに協力の相手を送つていたゞき
 度い、吾々は次に日本の為めに一生懸命
 に働きたいと思つて居るのであります、
 皆さんの御健康御健斗を祈るものであり
 (約三十三分) 換点八十点(未音)

ボンプラシ區入植二十五周年

惜しや雨に紫らる

かねて鳴物入りで宣伝中であつたボ
 ンプラシ二十五周年祭典は、シラスコ喜の
 真最中からにわか雨に見舞われ、主催者
 下氣をもちました、九月九日午前九時同区
 公会堂で先設者慰靈祭が行われ、ついで
 校舎寄の天幕下で、草分入植者、自治功
 労者の表彰式があり、未着祝詞は、デレ
 ガー氏、市長畑中さんの日伯両語で巧者
 なる一席を放つて喝采を博した、十二時
 頃、ほろり空腹を覚ゆる頃、シラスコが配
 られ内外の招宴者二百余名、ビジェーロの東園に
 舌鼓をうつ頃、西南の空にわか雨にあやしく
 烈風砂塵をまき、ホッ／＼と雨が加つて
 来たので、シラスコの串を肩に、セルベージヤ
 を片手に校舎に逃げこみ、時なりぬ日伯
 親善風景がそこそこ、に展開された、
 雨はさして、ひどいわけでないが、金興
 の大運動會の合同々々にホッ／＼にやる
 始末、主催者たちは、早くやんでくれん
 と夜の大演藝會が困る／＼と中々の心配
 だ、見れば立派な舞台が出来て居るが野
 外の草とて、おのもめる事願しい、
 欲しい雨だし、あいにくの雨だ、しかし
 広い運動場に集つた見物人の波、千とも
 二千とも雨も物かわ、さうせ着物の濡れ
 ついで、ゆっくり既まで頭張るつと、ボンプ
 インファン中々ちや／＼かりして居る、だが雨
 の方も、中々ネバルので、西ヶ迫区長役員共
 で頭をしほり、遂に大英断
 来る十五日(土)夜まで延期とは
 をかしたり！、をかしたり！

オズワルド軍遂に優勝

聖州野球連盟主催第十回聖州
 野球選手権大会 三日日九月九
 日大軍対オ軍の優勝戦

オズワルド軍も一戦クク、確実な試合
 を力量を發揮した、パ線代表のオズワ
 ド軍は優勝戦まで三試合を行い、不思議
 と補回戦まで、おほつて幸勝して居る、
 者とも力を上しきつて、ベンチでの頭腦戦
 となり、五回まで七×五と、な、後半、
 にかまえて波乱なく、オ軍の攻撃を不
 軍の加藤投手から、圧えて、そのオ、押し
 切り、遂に二点を以て、輝く優勝を、
 此の大会に、一回、オ軍、オ軍、
 スワルド、今回オ軍再び優勝をとけて三
 度パ線の名を挙げたこととて、地元の感
 は、祭するに余りある、
 ラジオ評によるとオ軍の奮闘は目ま
 しく、終始打撃戦を展開して、一先、
 ことに大会の花があつたという、

NOSSA RELOJOARIA
 AV. TAMPIOS, 785
 AV. TUPA
 TUPA
 時計、宝石
 黄金高の御用
 結婚エビワ
 婦人飾身具の御用
 ツパン市アベニータモヨ 785
 ノッサ時計店



たとえ歩みは鈍くとも

- 一 値は値なりに良い品を
 - 一 仕入は現金問屋から
 - 一 儲けよりも先づ
- 真面目一筋に

ウキタ金物店

ホント前

Trostei os meus três soldados.

- Sabem que e tudo que temos; se pastarmos os nossos três soldados esta noite, amanhã não teremos nada para almoçar; ora, como já comemos hoje, acho que é razoável pensar no dia seguinte.

Trostei a meter os meus três soldados na alvideira. "Capi" e "Dolce" abaixaram a cabeça com resignação, mas "Zerbino", que nem sempre tirhe bom renio, e que ainda por cima era guloso, continuou a resmungar. Depois de ter olhado severamente para ele sem o poder fazer calar, voltei-me para "Capi".

- Explica ao "Zerbino", disse-lhe eu, o que parece ele não quer compreender; e preciso abstermo-nos hoje da segunda refeição, se quisermos ter amanhã uma só. Imediatamente "Capi" deu uma palmada na patada do seu camarada e pareceu travar-se uma discussão entre eles.

Não havia pois mais a fazer do que andar sempre direito em frente, pela estrada branca até encontrar um abrigo. Foi o que fizemos.

Deixando a estrada, metemo-nos pelo meio das pedras e em breve descobri um enorme bloco de granito, colocado de esquelha, de modo a formar uma especie de cavidade na base e um telhado no cimo. Nesta cavidade o vento amortoára um leito espesso de rama de pinheiro secco. Não podiamos encontrar melhor; um enxerção para nos estendermos, um telhado para nos abrigarmos; só nos faltava um bocadinho de pão para a ceia; mas era preciso tratar de não pensar nisso; além de que não diz lá o proverbio: "Quem dorme janta?"

Antes de adormecer expliquei a "Capi" que contava com ele para nos guardar, e o bom do animal em lugar de vir deitar-se conosco em cima da rama dos pinheiros, ficou de fóra do nosso abrigo postado em sentinela. Podia estar socegado, sabia que ninguém se aproximaria de nós, sem que eu fosse prevenido. Contudo, apesar de estar descansando nesse ponto, não adormeci logo que me deitei na rama de pinheiro, com "Joli-Coeur" ao pé de mim embrulhado na minha manta e "Zerbino" e "Dolce" deitados aos meus pés; a inquietação em que estava ainda era maior do que a fadiga que sentia.

Quando acordei era dia claro. "Capi", sentado defronte de mim, contemplava-me; os passaros Chilrejavam na ramaagem; ao longe, muito ao longe, um sino tocava as Ave-Marias; o sol, já alto no ceu, lançava raios quentes e consoladores, tanto para o coração como para o corpo. A minha resolução estava tomada; pastaria os meus três soldados e depois veriamos. Quando chegamos a aldeia, não precisei perguntar onde era a padaria; o nariz guiou-nos a ela; tive o olfato quasi tão fino como o dos meus cães para sentir de longe o cheiro bom do pão quente. Três soldados de pão quando ele custa cinco soldados a libra não nos deram a cada uma senão uma porção bem pequena, e o nosso almoço terminou rapidamente.

A minha intenção não era dar representações imediatamente, porque a hora não era propria; mas sim estudar aquela região, escolher o melhor lugar e voltar no meio do dia para tentar a sorte.

Estava absorvido por esta ideia quando de repente ouvi gritar atroz de mim; voltei-me muito depressa, e vi "Zerbino" perseguindo por uma velha. Não me foi necessario muito tempo para perceber o que provocava aquela perseguição e aqueles gritos; aproveitando-se da minha distração, "Zerbino" tinha-se afastado de mim e entrado numa casa onde roubou um bocadinho de carne, que trazia na boca.

- Acarrá, que é ladrão! gritava a velha, agarrem-no, agarrem-no todos! Quando ouvi estas ultimas palavras, sentindo-me culpado ou pelo menos responsavel da falta do meu cão, pus-me tambem a correr. Não parei senão quando me começou a faltar a respiração, isto e, depois de ter andado pelo menos dois kilometros. Voltei-me então, e atrevendo-me a olhar para traz; ninguém nos seguia, "Capi" e "Dolce" vinham sempre ao pé de mim, "Zerbino" vinha ao longe, tendo com certeza parado para comer o seu pedaco de carne.

Chamei-o, mas "Zerbino" que sabia perfectamente que merecia um castigo severo, parou; depois em lugar de vir para mim desatou a fugir. Chamei-o, assobiei, mas tudo foi inutil, não pareceu; como tinha almoçado bem, dieria agora socegradamente, debaixo de alguma mata A minha situação estava-se tornando critica; se me fosse embora ele podia perfectamente perder-se e não nos tornar a encontrar; se ficasse, nãoa achava occasião de ganhar alguns vintens e de comer.

小林會計事務所 提供

農業登録の心得と其の恩典

聖市 京野四郎(訳)

二、国家農産物課を通じて

- a. 農務省の配給計画に従い優良苗木は種子を当局から配給する時に優先権を与える。
- b. 農業経営に對する協力契約に署名する現行規定による農業機械を割払ふ賣却する現行規定による農器具を拂下する。
- c. 特別の場合には農産課の職員により技術援助を与える。
- d. 駆虫剤、殺菌剤その他の薬品の提供に對し優先権を与える。
- e. 家畜の糞や植物を堆肥として利用する為の堆肥小屋その他の設備に對し調査、設計の援助を与える。
- f. 種子又は苗木の生産に對する栽培管理の契約をする。

第三項 植林課を通じて植林上の種子又は苗木の配布に優先権を与える。

第四項 農業情報課を通じて、農業及び畜産技術の刊行物の配布、又国家全体の農業及牧畜状況と農務省の監督に關する刊行物の配布をする。

第五條 前條に規定された特典や農務省の計画に入っているその他の特典、又は法令によつて許可された特典の他に農業者及び牧畜家は一九四六年十月廿七日の法令ニ二一八五号及び一九四六年十二月廿九日の法令ニ二一三七八号の規定により一九三九年一月廿日の法令一〇六二号の規定に從つて農畜産物奨励の爲めに当てられた材料及び家畜の運賃の五〇%割引の特典を受ける事ができる。

第六條 農業者及び牧畜家登録は生産物統計局の提供する特別ボレインに記入する事によつてなされるのであるが、それは登録された土地の特性を明瞭正確に記入しなければならぬ。

第七條 記入されたボレインはその土地の在るを証明する書類と、その土地の所有権を証明する書類を付けて登録手続きがなされる爲めに統計局へ廻わされる。

第八條 本條の要求を充たす爲めには次の書類の一つがなければ証明書として充分である。

- a. 若し登録者が土地所有者である場合は、地権の謄本又は不動産登録証明書。
- b. 最後の年度の地租税の納税受取書。
- c. 州又は地方徴税所の出した地租払済証明、但し此の証明には登録さ

19-2-52

れる土地に關する名前が明記されていなければならぬ。

二、登録者が土地購入契約者である場合は、賣買契約の地権譲渡証か又は一九三七主十二月十八日の法令五十八号による市街地賣買契約書又は賣買手帳があればよい。

三、登録者が借地人である場合、署名の証明をし、資格書及び書類登記所に登記された借地契約書があればよい。

四、登録者が永代借地人である場合は、長期借地契約書があればよい。

五、登録者が植民地のロッテの譲受人である場合、ロッテ又は家敷地の譲渡書類があればよい。

第六條 登録を有効にする爲めの証書書類として州農務局の農業者及び牧畜家登録所に登記した証明書及び市庁の登録所の証明書があればよい。

(本稿尚二回分づく)

登録手続は小林會計事務所へ致し、
ます(無料)かつ御相談下さい。

Leitão

山沢の子が
ホルクの
生まれ
格安分讓いたします



シャ-カラ分讓いたします

飛行場の前 10 alqueires

御希望の方は下記へ

コロリアス区 レイテイロ 前 田

西瓜栽培者に告ぐ

トリスアポトン

到着いたしました、御入用の方は
池田旅館正門前

トリスアポトン まで

マテイラ御入用の方は御申込下さい、
他より必ず安く且つ御届け致します

建築用マテイラ いろ

Atenção Jovens da Classe de 1938

A Secretaria da Junta de Abastamento Militar de Bastos, nos termos do ofício no 75/3 (Circular), faz ciência aos jovens da classe de 1938, que a comissão de seleção volante, procederá o exame médico nesta cidade, nos dias 14 e 15 de outubro próximo, cujo trabalho terá início às 8 horas do dia 14 de outubro de 1938, em local que será brevemente marcado.

Os jovens de classes anteriores, ainda em débito com o serviço militar, obrigatoriamente, deverão ser submetidos a exame médico, juntamente com a classe de 1938 ora convocada.

Os jovens de classe de 1938 e anteriores, ainda não portadores de Cartão de Abastamento, deverão se dirigir na sede da Junta de Abastamento Militar, instalada no prédio da Prefeitura, onde lhes serão entregues este documento.

Distoim, Comunica aos interessados que, a cidadã que deixar de comparecer ao exame médico, será considerada insubmetido e inconvertida nas parâmetros da Lei do Serviço Militar vigente.

Secretaria da Junta de Abastamento Militar de Bastos, em 4 de Setembro de 1938.

九月二日付通報三三四号にて一九三八年生れの壯下の徴兵検査に関する布告を御しらせしましたが、引つゞき本アピーは十月十四日及十五日の両日身体検査のある旨公示して居ります。時間は午前八時からです。兵役関係の書類はバストス市役所内兵事課に出頭して受取られる様、尚検査の場所付近を代表するとの事（これは訳文だけありません。該署要領のサ）

結 婚

バストス短哥会八月例会作品

ナウチ区松原秀樹氏の四男章三さんと同区北谷幸雄氏の二女紀美子さんは、重道永栄氏の媒酌で去る九月八日結婚式と挙げられました。おめでとう！



ちっとも痛くないトラクタ！

DR. B. PINHEIRO
DENTISTA
Consultorio

Vizinho de Farmacia Sasaki

Atende-se da 8 Horas a 17 Horas

歯科医開業

此の度び皆さんの御奨めに依り佐々木薬局上隣りに開業いたしました。何卒御利用下さい。 Dr. B. Pinheiro

- 母留守に不機嫌な孫なだめつ、
孫の熱実を抱きこちかみす、
吹本菊子
- 耽読の暇なきこと思いつつも
一書は左右に細き看守る
山本和枝
- カエラモン飲みひそかに頭痛おさえ居り
シネマ疲れと言はれたくなく
渡部チエ
- 年毎に知人入りゆくバストスに
二十四年の過去をもつ我
森重羊鈴
- コッピンの方を打ち崩す音ひびき
桑の熟実を顔に落ちつぐ
山本一男
- 思案みだすものなき空の白き海岸
うす汚れるを他びく眺む
重道千代子
- 傾斜地に降り流さるる西風畑
三たび蒔きつぐ鉄にかりしめ
田中霜月
- 不意にフロレットをさしつけられて
目くらみぬ 暗き所角摸る時に
土井はやし
- 汽車を待つ 駅構内の風寒く
羽音もまてが 蚊は寄りて来る
森重枝美

コブリンコ 稔植民會社

皆様の御要望に應へる爲め弊社は今回北パラナ!! 最後に残された唯一のバルミタール地帯 珈琲、棉、ラミー等の最適地
セイラードスドライドの(フイケラ区)の賣出しをいよいよ開始いたしました。

○ 道路は既に日本より来た青年團發隊其の手にて完成されてます
 ○ 市街地、ヌツタ及シャイカラ等も近日中に賣出しを開始します
 ○ 各ロットは十アルケル―五アルケル迄

Compania Brasileira imigração Colonização

COBRIMCO

Cosc. Rua 15 de Novembro 233 8º AND. S. PAULO



位置 クルゼロドエステより四〇キロ 西北
 標高 五〇〇メートル五五〇メートル
 總面積 三万アルケイレス
 地價 十六コントセ
 払込 四年掛 30% 25% 20%
 申込殺到! 一日も早く御視察を乞う
 詳細は左記へ
 バストス(郵函ニ六)
 代理人 阿部 二郎

ALBATROZ

Sabão Lava Melhor



アルバトロイズはヨイサボン
 形がくづれず 手があられず
 よこれがよくあちる
 をして安い
 一度つかつたら
 忘れられない
 泡立ち手ざわり
 バストス各商店でお求め下さい
 アルバトロイズといつて

ボンフィン区

演藝大會 日のべ

来る九月十五日(サバド)午後六時より

。去る九日はにわか雨の爲め、持用御出で下さい
 ましたのに残念乍ら同演をきませんでした

すはらしい組合せフロクマ、みはり楽団
 藤原舞踊団特別応援、芝居金踊り等々

どなたも御でかけ下さい!

海外協会連合會理事長 来植

かねて来植を傳えられていた海外協会連合會理事長仲内憲治氏は、外務省事務官渡辺氏共々大沢海協聖市駐在員の案内でトワパン經由する九月九日来植された。恒とボンナと入植を志したためドトル農田の味りや田舎の植民地風俗視察とあり、島打帽にニッコンを着た輕装で、植民者や白人の中にもじりシラスコを珍らし相にかたり作り、入植當時を興味深く聞いていた。夕方アママンケナ向け予定の旅へ。

マスク 念腹選

退院のマスク 高原のバスターのる 子エ
 禁酒とは思いきつたるマスクかな 赤音
 マスクが動いて面のゆるみけり 紀南子
 襟襟よくマスクをかけて髯の人 喃一
 挨拶のすむマスクをかけたにけり 梅志
 握手の存あづけしま、マスクどり 千代子
 マスクで逢ふ人毎に問われをり 為子
 マスターで封坊シネマの列に入る 喃一